

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2019 年 3 月 12 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団  
会長 喜 多 悦 子 殿

## 2018 年度地域啓発活動助成

### 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り報告書を添付し提出いたします。

#### 記

活動課題

がんに伴う認知機能障害の認識の向上のための啓発活動

活動団体名：

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻

活動者（助成申請者）名：

谷向 仁

## I. 背景

がん医療の進歩に伴いがんサバイバーも増えているが、同時にがん治療に伴って生じる様々な苦痛/苦悩に対する支持療法（サポर्टィブケア）も非常に重要と考えられるようになってきている。近年、多くの医療機関でこの支持療法が提供されるようになってきており、痛み、倦怠感などの身体的問題、不安、抑うつ、せん妄などの精神的問題、心理社会的な問題については取り組みが進んでいるが、がんに伴う認知機能障害については、海外では関心も高く研究も進んでいるが、国内ではその認知度が決して高いとは言えない現状にある。がんや治療に伴う認知機能障害は、日常生活では実際に支障が出ているにもかかわらず、認知機能検査における機能低下は正常範囲内か軽度であることが多いため、周囲の人からは気付かれていないことも多く、患者が一人で悩んでしまっていることもある。

## II. 目的

がん診療に携わる医療者及びがん患者とその家族を対象とした、「がん医療における認知機能障害」に関するパンフレットを作成、配布し、啓発活動に役立てる。

## III. 方法

がん診療に携わる多職種（医師、看護師、薬剤師、心理士、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど）を対象として、「がん治療中にみられる様々な症状に関する医療者への調査」を実施し、その結果を踏まえて、医療者および患者/家族向けへのパンフレットを作成し配布する。

①調査対象：がん診療に携わる医療者

②調査期間：2018年11月20日～12月15日

③方法：無記名式の Web アンケート調査

④質問項目

- (1) 診療/面接などの際に「医療者が患者さんに確認している内容」について
- (2) 診療/面接などの際に「患者さん自身から医療者に訴えがある内容」について
- (3) がんサバイバーの社会復帰を阻害する要因で重視している内容について
- (4) 手足のしびれ等の感覚異常や運動障害の出現と様々ながん治療や薬剤との関連について
- (5) 物忘れや注意/集中力困難の出現と様々ながん治療や薬剤との関連について
- (6) 医療者が「認知機能障害がある」と考える症状について
- (7) 「ケモブレイン(化学療法に伴う認知機能障害)」の認知度について
- (8) がん治療に伴う二次障害(身体・精神・認知等の症状)について

なお、医療職を対象とした無記名アンケート調査については倫理審査が必要ないことを当

大学医学研究科医の倫理委員会に確認して実施した。

#### IV. 結果

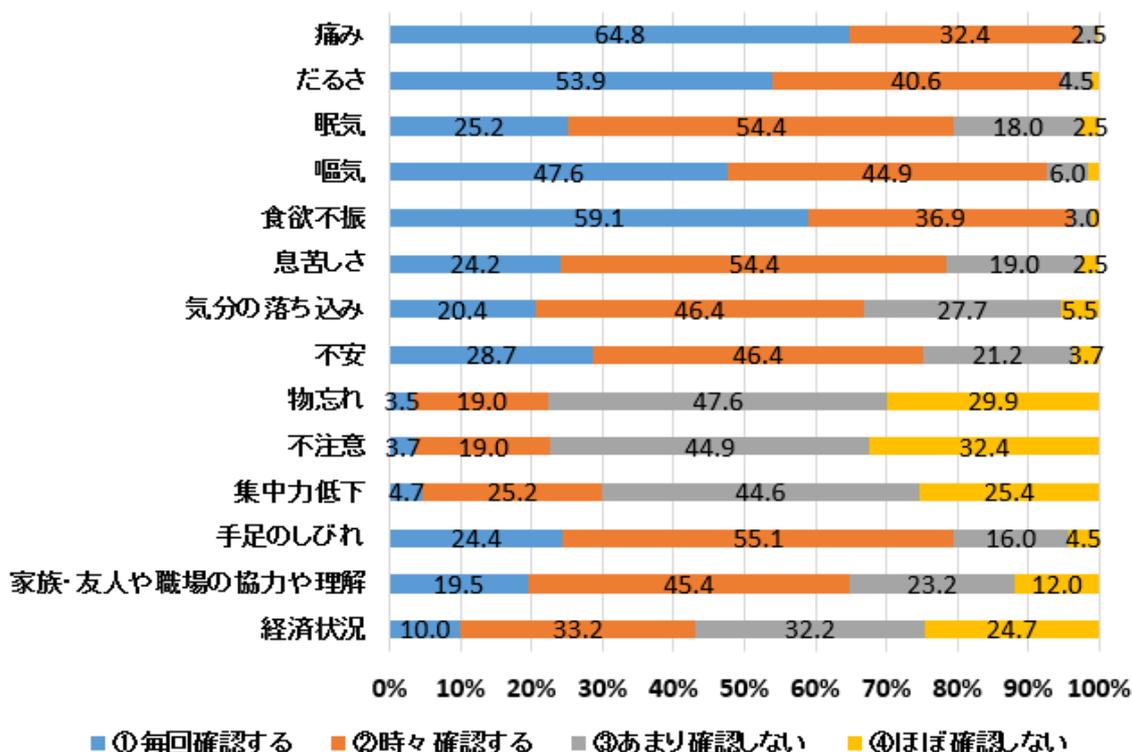
(1) 回答総数：401名

(2) 回答職種：医師（62名）、看護師（100名）、心理士（11名）、薬剤師（129名）、リハビリテーションスタッフ（理学療法士62名、作業療法士15名、言語聴覚士3名：計80名）、医療ソーシャルワーカー（15名）、管理栄養士（4名）

(3) がん診療経験年数（平均±標準偏差）：10.3±7年

#### ⑤アンケート結果

##### 1. 医療者が患者に確認する内容

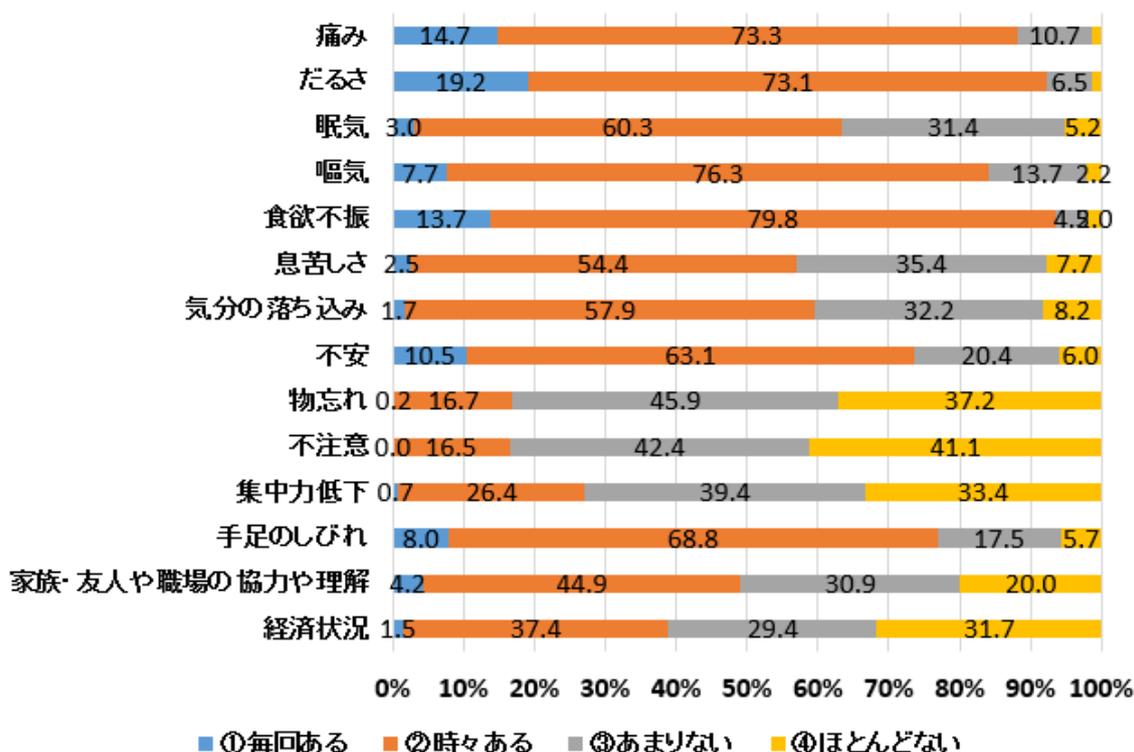


身体的問題のうち、「痛み」、「だるさ（倦怠感）」、「食欲不振」では、診察/面接の際に「毎回確認する」と回答した人が50%以上であり、「時々確認する」を含めると90%を超えていた。

精神的問題（気分の落ち込み、不安）では、「毎回確認する」と回答した人は30%以下であり、「時々確認する」を含めた場合、気分の落ち込みでは67%、不安では75%となった。一方、認知機能に関連する「物忘れ」、「不注意」、「集中力低下」については、「毎回確認する」

と回答した人はそれぞれ5%に満たず、「時々確認する」を含めても30%未満であった。社会的問題（家族・友人や職場の協力や理解、経済状況）については、「毎回確認する」と回答した人は20%以下であったが、「時々確認する」を含めた場合、「家族・友人や職場の協力・理解」については60%を超えたが、「経済状況」については43%程度であった。

## 2. 患者から訴えのある内容



身体的問題のうち、「痛み」、「だるさ（倦怠感）」、「食欲不振」では、患者からの訴えが「毎回ある」と回答した人は10%を超えていた。また、「時々ある」を含めた場合、「痛み」、「だるさ（倦怠感）」、「嘔気」、「食欲不振」では80%を超えていた。

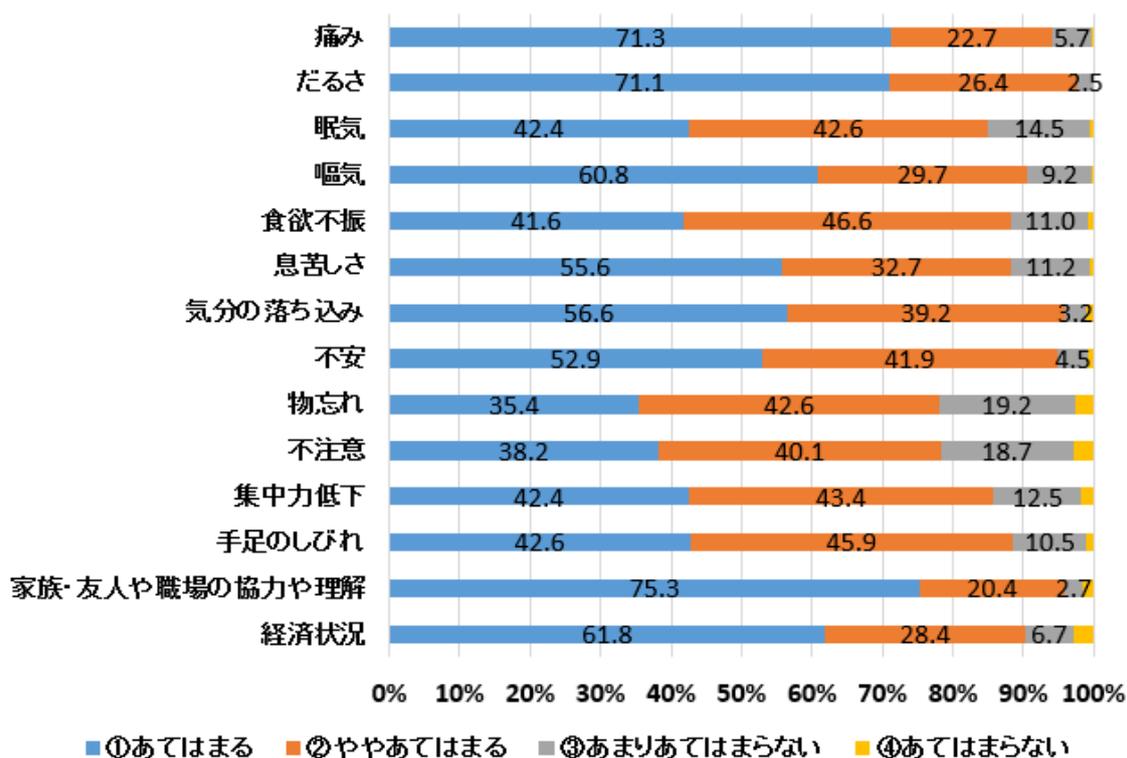
精神的問題のうち、「不安」については、「毎回ある」と回答した人は約10%であり、「時々ある」を含めると70%を超えていた。また、「気分の落ち込み」については、「毎回ある」と回答した人は1.7%と少なく、「時々ある」を含めると約60%であった。

一方、認知機能に関連する、「物忘れ」、「不注意」、「集中力低下」については、「毎回ある」と回答した人はすべて1%未満であり、「時々ある」を含めても、「物忘れ」、「不注意」で17%程度、「集中力低下」では27%程度であった。

社会的問題（家族・友人や職場の協力や理解、経済状況）については、「毎回ある」と回答した人は5%以下であり、「時々ある」を含めると、「家族・友人や職場の協力・理解」につ

いては約 50%、「経済状況」については 39%であった。

### 3. 社会復帰を阻害する要因

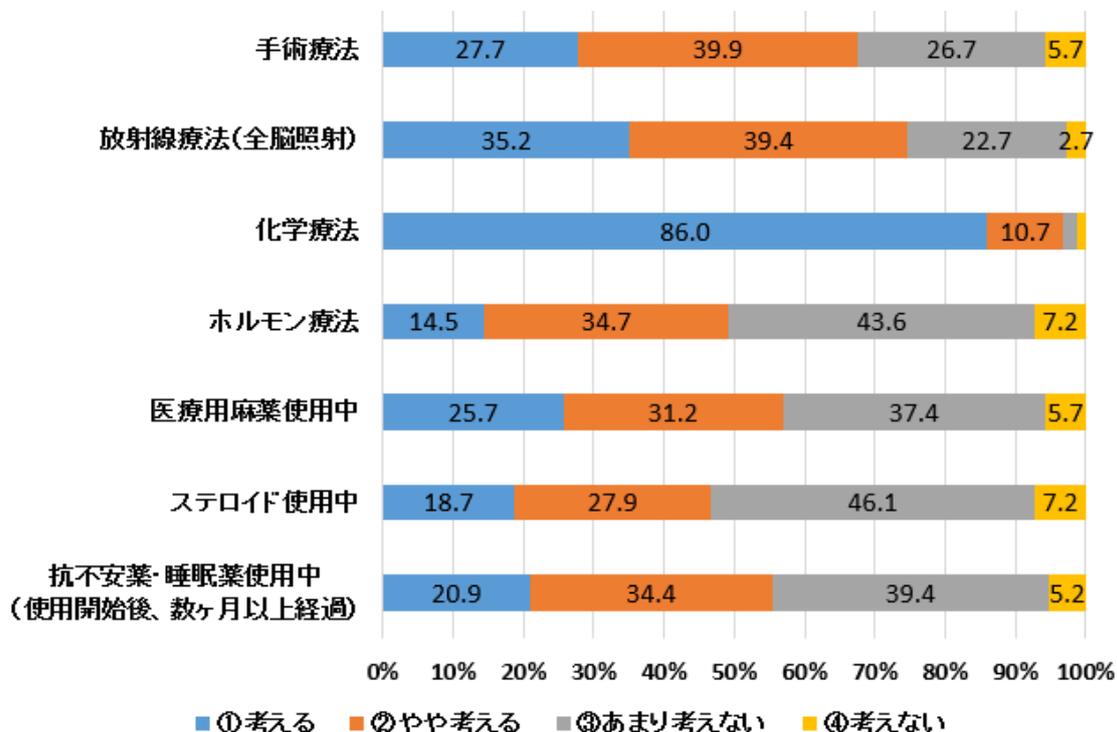


身体的問題のうち、「痛み」、「だるさ（倦怠感）」については、70%以上の人が「あてはまる」と回答していた。また、「嘔気」、「息苦しさ」についても 50%以上の人が「あてはまる」と回答した。

精神的問題では、「気分の落ち込み」、「不安」ともに「あてはまる」が 50%を超えていた。一方、認知機能に関連する症状（物忘れ、不注意、集中力低下）については、それぞれ、35%、38%、42%が「あてはまる」と回答した。

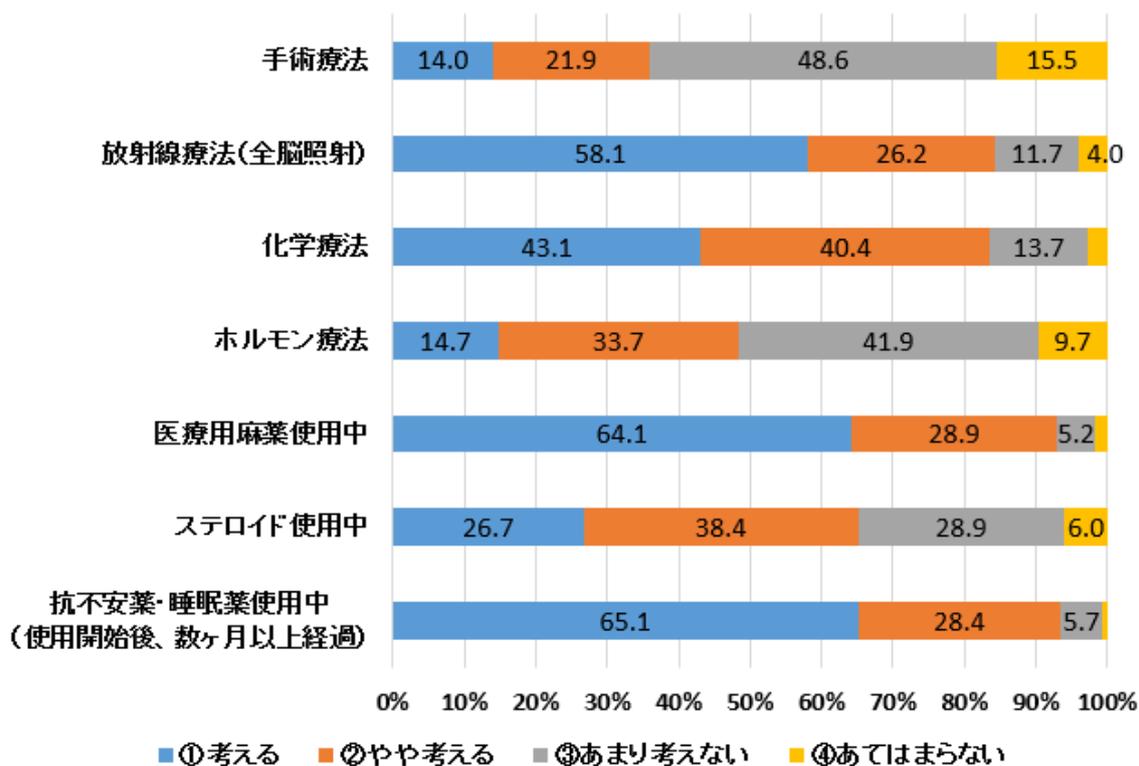
社会的問題では、「家族・友人や職場の協力や理解」については 75%以上、「経済状況」については 60%以上の人が「あてはまる」と回答した。

#### 4. 感覚障害や運動障害と治療法/薬剤の関係について



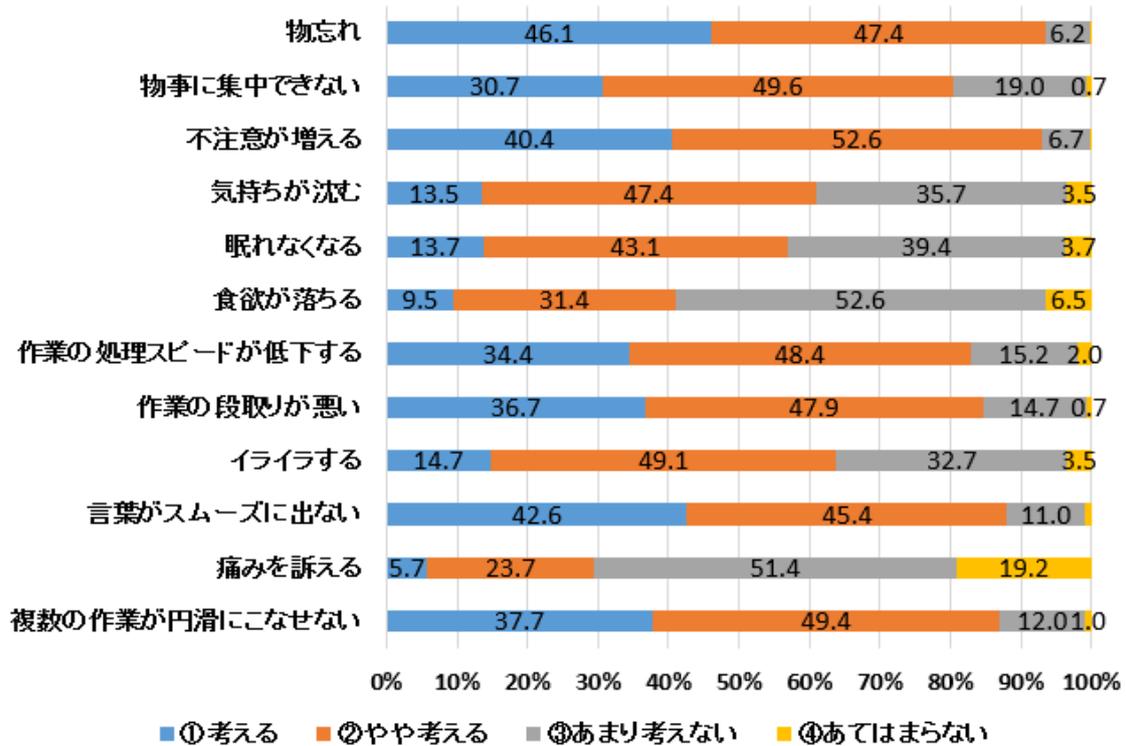
神経・運動症状（手足のしびれ、感覚異常、運動障害）との関連を積極的に考える治療や薬物については、「化学療法」で80%を超えていた。次いで、「放射線療法（全脳照射）」では35%を超えていたが、「手術療法」、「医療用麻薬使用中」、「抗不安薬・睡眠薬使用中」ではそれぞれ20%台であった。

## 5. 認知機能障害と治療法/薬剤の関係について



認知機能に関連する症状（物忘れ、注意・集中力困難）との関連を積極的に考える治療や薬物については、「医療用麻薬使用中」や「抗不安薬・睡眠薬使用中」において60%以上であり、「放射線療法（全脳照射）」（58.1%）、「化学療法」（43.1%）と続いた。一方、「ステロイド使用中」、「ホルモン療法」では、それぞれ、26.7%、14.7%であった。

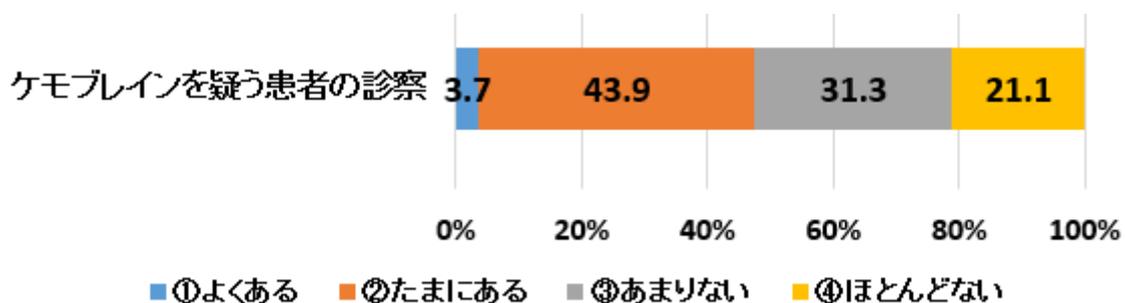
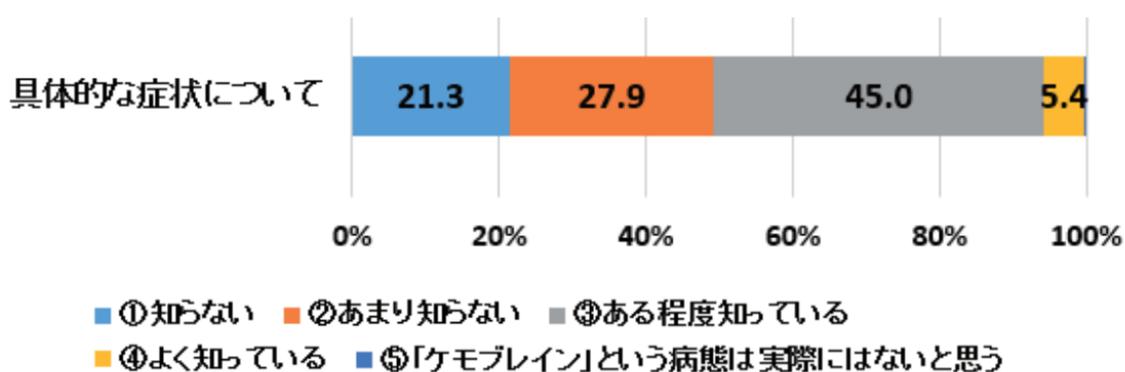
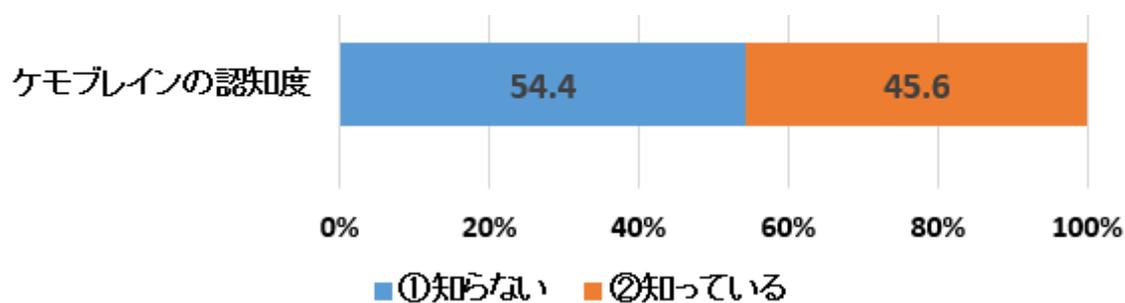
## 6. 認知機能障害を考える症状について



認知機能障害を考える症状については、「物忘れ」、「不注意が増える」、「言葉がスムーズに出ない」で40%以上の方が「考える」と回答した。

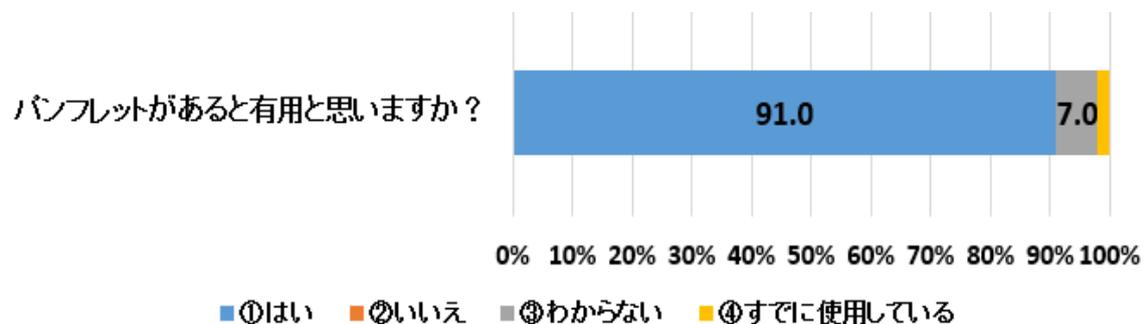
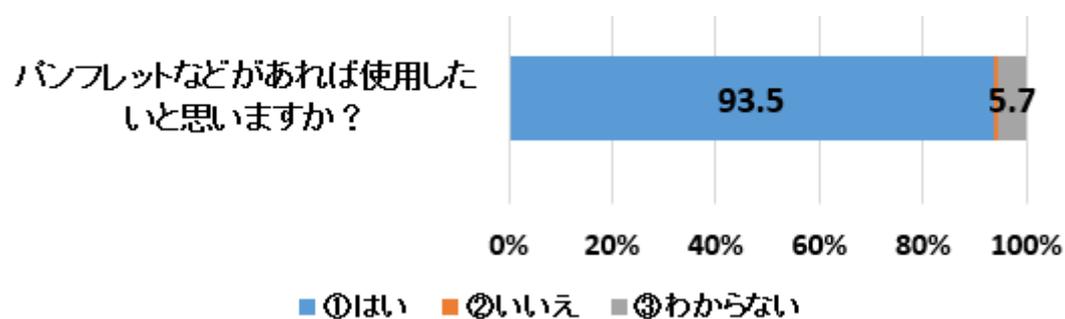
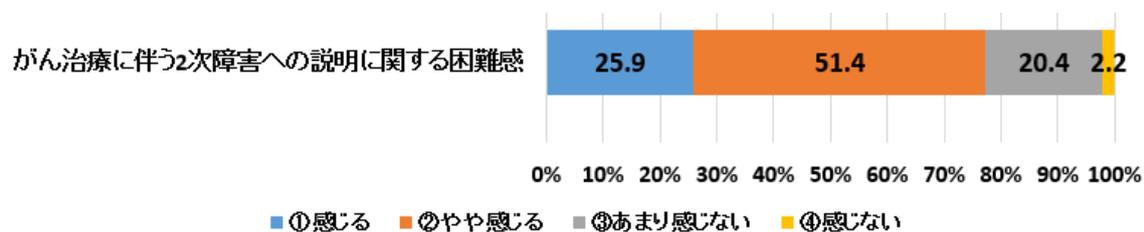
次いで、「複数の作業が円滑にこなせない」(37.7%)、「作業の段取りが悪い」(36.7%)、「作業の処理スピードが低下する」(34.4%)、「物事に集中できない」(30.7%)が続いた。

## 7. ケモブレインについて



ケモブレイン（化学療法に伴う認知機能障害）について、「言葉を知っている」と回答した人は45.6%であったが、具体的な症状を「よく知っている」と回答した人は5.4%であり、「ある程度知っている」を含めた場合でも50%程度であった。

## 8. がん治療に伴う 2 次障害について



がん治療に伴う 2 次障害について、「患者・家族に説明することに対する困難感を感じている」と回答した人は、「感じる」、「やや感じる」を合わせると 77%であった。また、「説明の際に役立つパンフレットなどがあれば使用したい」、「パンフレットを使用して説明することの有用性を感じる」と回答した人はともに 90%以上であった。

以上の結果をもとに、医療者向けおよび患者/家族向けのパンフレットを作成し（笹川記念保健協力財団に各1部ずつ提出済み）、京都府内を中心とした近畿地区、および調査に協力を得た各地域の医療機関、復職支援関連窓口など合計135カ所に送付した。また、それぞれのパンフレットについて、分量、内容（難易度）、有用性の3点について、無記名式のはがきにてフィードバックを受けた。

#### フィードバックの結果

回答数：58

回収率：43%

医療者 パンフレット (N=55)	分量	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い
		0(0%)	3(5.5%)	52(95%)	0(0%)	0(0%)
	内容	難しい	やや難しい	適切	やや簡単	簡単
		0(0%)	3(5.5%)	49(89%)	3(5.5%)	0(0%)
有用性	有用でない	やや有用でない	普通	やや有用	有用	
	0(0%)	0(0%)	13(24%)	15(27%)	27(49%)	
患者/家族 用パンフレット (N=57)	分量	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い
		2(3.5%)	1(1.8%)	53(93%)	1(1.8%)	0(0%)
	内容	難しい	やや難しい	適切	やや簡単	簡単
		0(0%)	3(5.3%)	49(86%)	5(8.8%)	0(0%)
有用性	有用でない	やや有用でない	普通	やや有用	有用	
	0(0%)	3(5.3%)	13(23%)	20(35%)	21(36.8%)	

医療者用パンフレットおよび患者/家族用パンフレット共に、「分量」について93%以上、「内容」について86%以上から、「適切」との回答を得た。有用性については、医療用パンフレットで76%、患者/家族用パンフレットで72%から、「やや有用」、「有用」との回答を得た。

#### IV. 今後の課題

- ・フィードバックで得た意見をもとにリーフレットを改良
- ・職種ごとのデータを解析し、職種ごとに強調すべきポイントの工夫を盛り込んだ職種別リーフレットの作成
- ・啓発活動の効果の検証
- ・相談窓口の整備 など

#### V. 本調査の成果等の公表予定

2019年6月 第24回 日本緩和医療学会学術大会にて、2演題を登録

2019年9月 第53回 日本作業療法学会にて、1演題を登録

以後、日本サイコオンコロジー学会、日本総合病院精神医学会などにて発表を予定するとともに、学術雑誌への投稿を予定する。